

住む 1周目：搾取された  
ボ・スターン・ブレイディー  
2023年・9月・24日

イザヤ書は、預言者イザヤの言葉、思想、感情、神学を壮大にまとめたものです。彼はウジヤ、ヨタム、アハズ、ヒゼキヤという4人の異なる王の統治を通して預言しました。

紀元前 721 年、彼の 40 年間にわたる預言宣教の真つ最中に、イスラエルはアッシリアに征服されました。イザヤは北王国が崩壊するのを見ながら、南ユダ王国に警告を預言し始め、神に立ち返らなければ同じ運命に直面するよう警告しました。イザヤは正しかった。バビロンはイザヤの死後ずっと後、紀元前 587 年にユダを征服した。しかし、彼の警告と彼の働きはイスラエルの人々にとって非常に重要な意味を持っていた。この本の構造と内容から、この本の著者が聖書学者の間で話題になっています：

第 1 章から第 39 章: バビロン捕囚以前

第 40 章から第 66 章: 150 年の飛躍、亡命後、イザヤの死後。(ここでも散文から詩への鋭い文学的転換が見られます)

一つの考えは、イザヤは未来への預言を書いていたということです。

もう 1 つのアイデアは、イザヤが見たこと、感じたことすべてを書き、その巻物を弟子たちのグループに手渡し、弟子たちがバビロン捕囚の時代を生きながら、その情報を預言的に適用したというものです。いずれにせよ、私たちはイザヤ書がイザヤの人生、心、奉仕に基づいていると信じています。この本の最も古い写本は、現存する最も完全な写本の 1 つでもあります。これは 1947 年に発見された死海文書の 1 つでしたが、その文書自体は紀元前 125 年に遡り、イザヤ書全 66 章が 1 枚の巻物の 54 段で書かれており、39 章と 40 章の間にはまったく切れ目がありません。イスラエルの人々は、この本全体が、直接的であれ間接的であれ、預言者イザヤの著作であると理解していました。

イザヤ書は福音書で約 21 回、パウロの手紙で 25 回、ペテロ第一で 6 回、使徒行伝で 5 回、黙示録で 4 回、ヘブライ人への手紙で 1 回引用されています。

イザヤ書は長さだけでなく、来るべき王国と全世界を贖う真の救世主を指し示す重みのある内容となっています。イザヤ書 9 章で、イザヤはイエスの到来に関する最も強力な預言的発言のいくつかを表明しています。「彼の名は呼ばれる、素晴らしい、相談者...」。

ルカ 4 章で、イエスはイザヤ書を引用してご自身の宣教を開始し、「私はこの言葉の成就です」と言われます。

つまり、イザヤ書は非常に奥深く、神学的に多大な意味を持つ書なのです。時間軸や声に変化するため、読むのは難しいかもしれませんが - 時には預言者が語り、時には神が語り、時に

は抗議する人々が - しかし、イザヤ書のすべてが来るべき救い主を指しており、私たちを助けようとしていると理解すると、私たちの人生を神の救いを受け、歓迎する立場に置くと、理解が容易になります。

次の5週間、私たちはイザヤ書の特定の章、第58章でキャンプをするつもりです。それを宝箱のように開けて、贈り物の中のすべての贈り物を見てみましょう。そして、もし私たちが申請した場合は、これらの贈り物も見てください。それらは私たちの生活に変革をもたらすでしょう。イザヤは救い主が時間軸の自分側から来られるのを見ました。私たちはタイムラインの反対側から神の働きを見ています。私たちはこの言葉を読み、自分たちの世界でそれを動かすためのレンズとして、バックミラーとイエスの救いの働きの証拠を持っていることを幸いに思っています。

今日は最初の 5 節に取り組みます。

“大いに呼ばわって声を惜しむな。あなたの声をラッパのようにあげ、わが民にそのとがを告げ、ヤコブの家にその罪を告げ示せ。”

イザヤ書 58:1 口語訳

これは衝撃で始まります。トランペットのように声を張り上げます。イスラエルでは、トランペットは常に人々を呼び集めたり、神に捧げる捧げ物に神の注意を向けさせたりするために使用されます。トランペットは繊細ではありません。オーケストラやマーチングバンドでトランペットを習っている子供を育てたことがあるなら、トランペットは無視できないことをご存知でしょう。したがって、「トランペットのように声を上げなさい」という言葉に続く内容が非常に重要になります。ここで預言者は誰に向かって語っているのでしょうか？ヤコブの子孫。彼は神に選ばれた人々と話しています。ルールややり方、ストーリーを知っている人。神を知り、神に知られることには結果があることを理解している人々。それも私たちです。それで、私たちは人々の反乱と彼らの罪について聞かされることになります...

“彼らは日々わたしを尋ね求め、義を行い、神のおきてを捨てない国民のように、わが道を知ることを喜ぶ。彼らは正しいさばきをわたしに求め、神に近づくことを喜ぶ。”

イザヤ書 58:2 口語訳

日々。とても興味深い言い方ですね。少なくとも非常に一貫性があります。日々。そして彼はこう言います。「彼らは私のやり方を知りたがっているようです...」。そして彼らは神の命令を捨てていないかのように振る舞っています。

彼らは正しいさばきをわたしに求め、神に近づくことを喜ぶ。”

イザヤ書 58:2 口語訳

繰り返しますが、預言者は「彼らは熱心なようです」と言います。この熱心という言葉はヘブライ語で「喜び」という言葉です。彼らはこれを喜んでるように見えますが、心の中ではそうではありません。どういうわけか彼らの喜びは別のものになっています。

“彼らは言う、『われわれが断食したのに、なぜ、ごらんにならないのか。われわれがおのれを苦しめたのに、なぜ、ごぞんじないのか』と。見よ、あなたがたの断食の日には、おのが楽しみを求め、その働き人をことごとくしえたげる。”

イザヤ書 58:3 口語訳

ここで問題の核心に到達します。実際、問題の核心はまさにそれです。それは彼らの心の問題なのです。私たちは断食をしていますが、あなたにはそれが見えません。私たちはとても謙虚です！しかし、あなたは気づいていません。誰かに気づいてほしいとしても、それはやはり謙虚さでしょうか？彼らはここで、喜びの源となるべきものがまったく別のものに根ざしていることを明らかにしています。彼らは正しいことを間違った方法で行っており、望む結果を得ていません。

ここで何が起きているのかというと、彼らはヤハウェへの崇拝にカナン人の崇拝を少し混ぜ込んでいるのです。その異教の崇拝は神々に訴え、なだめて、彼らが望むものを得ることができるようになります。イスラエル人もこの考え方に陥っています。彼らは断食を神を自分たちの課題に手錠をかけるための手段だと考えています。この偽りの崇拝は、神に圧力をかけて自分たちを祝福し、保護し、あるいは繁栄させようとする願望に根ざしており、それは神が何者であり、神がどのように働くのかについての彼らの理解に深い欠陥があることを明らかにしています。ヘブライ語の宗教の本質は、神の腕をひねって神にパフォーマンスをさせるのではなく、むしろ愛と命を与える関係への神の招きに応えることです。そして預言者は、彼らの断食がなぜこれほど悲惨な結果をもたらすのかを続けてこう述べています：

“見よ、あなたがたの断食するのは、ただ争いと、いさかいのため、また悪のこぶしをもって人を打つためだ。きょう、あなたがたのなす断食は、その声を上に聞えさせるものではない。”

イザヤ書 58:4 口語訳

ええとああ。結局のところ、神は彼らの断食や謙虚さだけでなく、彼らの行動、言葉、態度すべてを見ておられるのです。神はそれをすべてご覧になっていて、神の似姿に造られた他者に対する彼らの行動が、彼らが神を見たり聞いたりする能力を切り離していると述べています。また、それは、ある程度正確に自分自身を見る能力も曖昧にしています。義務が喜びに取って代わられると、私たちは必然的に、死んだ宗教と呼ばれる、荒々しく怒りに満ちた悲惨な土地に自分自身を見つけるでしょう。Dead Religion にはルールブックとホールモニターがたくさんありますが、喜びと人生はすべてそこから吸い取られます。想像を絶するほど崇高な神と恋に落ちるといふ美しい神秘は、取引的な型にはまった精神的形成によって消し去られます - 私はあなたのためにこれをし、あなたは私のためにこれを行います - そして取引関係は

銀行、商業、契約のために構築されます -しかし、それらは愛のために作られたものではありません。最高の時も最悪の時も、満足感は得られず、魂が打ちのめされてしまいます。

それはイスラエルにどのように現れていますか？

1. あなたは好きなようにしてください(自分中心の死んだ宗教)「自分の欲望が第一」
2. あなたは労働者を搾取しています(死んだ宗教は利益と権力を人々に押し付けています)彼らは断食で何かを放棄している一方で、自分のために物を手に入れるために他の人々を傷つけています -彼らは権力と所有物を追い求めており、彼らは喜んでそれを放棄します。それを手に入れるために1、2食。まずは自分の力と所有物。
3. あなたの断食は口論と争い(邪悪な拳で殴り合う)で終わる <— なんとも興味深い言葉ですね！これは非常に暴力的な説明です。私たちの時代の「邪悪な拳」とは何ですか？(死んだ宗教は、ほとんどの場合、他人に対する暴力につながります。暴力は非人間化の結果です -死んだ宗教は、ほとんどの場合、何らかの形の非人間化と結びついています(他の参考文献)「まず私の意見です。」

預言者は、この種の宗教について神がどのように感じているかを揺るぎなく伝えている:

“このようなものは、わたしの選ぶ断食であろうか。人がおのれを苦しめる日であろうか。そのこうべを葦のように伏せ、荒布と灰とをその下に敷くことであろうか。あなたは、これを断食となえ、主に受けいられる日と、となえるであろうか。”

イザヤ書 58:5 口語訳

預言者が質問の形でこれを述べているところが気に入っています:

これが神が望んでいることだと思いますか？

これはうまくいくと思いますか？

これが関係のようなものだと思いますか？

これは受け入れられるものですか？

聖書全体には、義務と喜びという一貫した対比があります。

“主をほめたたえよ。主をおそれて、そのもろもろの戒めを 大いに喜ぶ人はさいわいである。”

詩篇 112:1 口語訳

“あなたのおきてを愛する者には大いなる平安があり、何ものも彼らをつまずかすことはできません。”

詩篇 119:165 口語訳

これらは、神が造られた創造物に嫌悪感を抱いている遠い神の命令ではありません。(私たちがディズニーランドへの旅行にすべてのお金を費やし、子供たちが退屈して携帯電話をい

じっているときのように...「楽しんでください、恩知らずの子供たち！」「私はあなたが私を喜ばせることを要求します！」これらは男の欲望です。これをモデル化する関係の神。彼が最初に行きます:

“主はおのれを恐れる者と そのいつくしみを望む者とをよみせられる。”

詩篇 147:11 口語訳

“主はおのが民を喜び、へりくだる者を勝利をもって飾られるからである。”

詩篇 149:4 口語訳

“あなたの神、主はあなたのうちにいまし、勇士であって、勝利を与えられる。彼はあなたのために喜び楽しみ、その愛によってあなたを新にし、祭の日のようにあなたのために喜び呼ばわれる。”

ゼパニヤ書 3:17 口語訳

仕方のない救いはありません。彼は躊躇する救助者ではありません。神は私たちに我慢したり、神の似姿を抱く人々を容認したりするだけではありません。神は私たちが喜ばせてくださいます。(レンリー - 彼女の中に娘の姿が見えます...私は彼女を愛さずにはいられません。) 彼は、私たちが十分に成長したときに得られるニンジンのように愛を差し出しません。彼は私たちが喜んで愛してくださいます。そして私たちは同じように彼を愛し返すように造られています。そして、神がこの問題において彼らが神を愛していないと判断できるのは、彼らが表面的なことをしていないからではなく、彼らが神が愛する人を愛していないからです。私たちが自分の欲望、力、所有物、意見を最優先にして生きていると、神の欲望、力、意見を受け入れて、それらを優先させるためにそれらのものを捨てることに喜びを感じなくなります。私たちが行く他のすべてのことの最前線にあります。

もう一度言いましょ。断食は、私たち自身の計画に神を手錠で拘束するために使用される手段ではありません。断食はその逆です。断食は私たちが自分たちの予定から解放し、主を発見する美しさと神秘に完全に身を委ねることができるようにするために作られています。そして、神の願望、力、意見にさらに入っていくと、必然的に私たちは神の似姿に創造されたものに近づくことになり、それらから離れることはありません。私たちは慈悲に向かって進みます。治癒に向けて。思いやりに向かって。恵みに向かって。今後数週間でこの箇所をさらに進めていくと、断食が自由と密接に関係していることがわかるでしょう。断食は何が米国に手錠をかけているのかを明らかにする。断食は、紐をほどき、ロープを緩め、束縛のくびきを打ち破ります...私たちの周りにあるもの、そして私たちが他の人の周りに置いているもの。

応答;曲「Rest」 - 聴きながら、次の質問に傾いてください。私の人生の中で、神の欲望、神の力、神の意見から私を妨げるものはありますか?手放したらどうなるのでしょうか?